

クラフトビールのブランドデザイン

Craft beer Brand Design

于 龍年
指導教員 川崎 紀弘

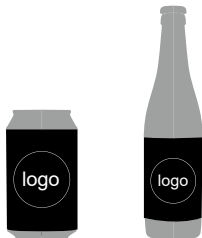
サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 伝わるデザイン研究室

キーワード：クラフトビール, パッケージデザイン

1. 研究の動機と目的

知人が一からクラフトビールのブランドを作ろうとしていて、そこで興味を持ち、自分で調べていくうちに海外のクラフトビールの奇抜で面白いデザインに惹かれた。そこで、私がデザインしたブランドロゴやラベルのデザインをその知人に提案しようと考えた。

リアルタイムで実際にクラフトビールのブランドを作ろうとしている人が身近にいたので、進めやすいと思った。



2. 調査内容

今年の六月ごろから、「デビルクラフト」というクラフトビールの店でバイトをし、自分なりに調査をしていてわかったことは、まず「外国人が多い」や「大学生や若い社会人が多い」、そしてやはり「女性の客はビールを好んで飲む人が少なく、ソフトドリンクやワインなどを飲む人が多い」、など。そして何より重要なのは、「ビールの種類がたくさんある中で、自分の好みの味のビールの種類が分かっていて、それを選んで買う人が少ない」ということがわかった。

つまりクラフトビールにおいて重要なのは、味はもちろんのことだがその前にまずパッケージデ

ザインである。なぜなら商品パッケージは消費者の注意や興味を引き、商品購入の動機付けを促す効果がある。そのうえ商品価値を高めてブランドイメージを定着できる。こうした販売効果のある発端になる商品パッケージのデザインは販売マーケットを拡大するために大きな役割を担うことになるからだ。なので、必要なのは「手にとってもらいやすい、目立つデザイン」である。

3. コンセプトおよびアイデア展開

クラフトビールショップ、例えば「Antenna America」(図1、図2)では様々なブランドのクラフトビールが缶でずらっと並んでうられている。

Antenna america



(図1)

図(2)

そのような場所で、

「外国人」

「若い人」

「女性も気になって手に取ってみたいくなる」

「派手で目に止まりやすい」

という要素を踏まえ、最終的に導き出されたコンセプトは、

「ブランドのキャラクターをつくり、パッケージに登場させる」。このコンセプトなら全ての要素に当てはまると思う。

いい例としてあげられるのが「West Coast Brewing」のパッケージ（図3）だ。「West Coast Brewing」のパッケージは、ビールをつくるに当たって欠かせない原料の一つであるホップが、可愛いキャラクターになってパッケージに登場している。とてもポップでオシャレなので、店に並んでいたらつい手に取ってみたいくなるようなデザインになっている。

West Coast Brewing



（図3）

先日私はバイト先である「デビルクラフト」のブルワリー（ビール醸造所）（図4）を訪れ、ビールができるまでの大まかな流れを見学した。



（図4）

そこで何かキャラクターにしやすそうなものを探した結果、ビールを作る一番初めの作業で使用したモルト（図5）がいいと感じた。



（図5）

4. 今後の方向性

まだまだ未定な部分は多いが、ひとまずこのモルトを軸にアイデアを展開していく予定。

5. 参考文献

<https://booksplus.nikkei.com/atcl/catalog/20/280630/>

<https://www.westcoastbrewing.jp/>

<https://www.antenna-america.com/>